

令和5年度 第2回 静岡県地域福祉支援計画評価委員会 議事内容

日 時	令和5年12月21日(木) 10時00分～12時00分
場 所	別館2階第3会議室(オンライン併用)
出席者	<p>&lt;委員&gt; (五十音順・敬称略)</p> <p>・岩倉 睦弘 ・五味 響子 ・竹内 浩視 ・土屋 幸己 ・中島 修          ・中村 彰男 ・松田 智 ・見野 孝子 ・守谷 充子 ・諸田 嘉人</p> <p>&lt;事務局&gt;</p> <p>・福祉長寿局長 勝岡 聖子 ・福祉長寿政策課長 鈴木 立子          ・地域福祉課参事 清水 雅夫 ・介護保険課長 加藤 克寿          ・こども家庭課長 村松 規雄 ・障害者政策課班長 山田 隆史          ・障害福祉課室長 大石 晴康 ・県民生活課長 望月 希世美</p>
議 事	静岡県地域福祉支援計画の中間見直し 素案
議事内容	静岡県地域福祉支援計画の中間見直し素案について意見交換を行った。 委員からの主な意見は下記のとおり

【各委員からの主な意見】

<孤独・孤立対策> <自殺対策>

- ・「ふじのくに孤独・孤立対策プラットフォーム」では、多くの組織が参画して知恵を出し合うことが必要だと思うので、NPO、企業や社会福祉法人など多様な主体が参画できることを広報してほしい。
- ・住民だからこそ気付く早期発見があり、今後は専門職と住民との連携も重要となる。孤独・孤立対策プラットフォームも最終的には住民との意見交換をすることが出来れば、早期発見から自殺予防までつながる。
- ・コロナの影響で職を失い、再就職に苦労してうつ病や依存症を発生し自殺する方もいる。職を失った後のフォローや予防的な対策など、自殺対策はどこに焦点を当てるかが重要。
- ・孤独を感じている方が多く、貧困や孤独の連鎖が自殺に結びついているかもしれない。その時々での支援ではなく、ライフサイクルに応じた長期スパンでの対策も重要ではないか。
- ・福祉教育が重要であり、現場での体験がないと命の希薄性や人と繋がることの重要性が伝わらない。社会の変化に対応して、施策とともに取組についても考える必要がある。

<重層的支援体制整備事業>

- ・孤独・孤立、ヤングケアラー、認知症などの様々な課題が、現場では重層的支援体制整備事業における支援会議に集約されている。複合課題についてどこにつなげば解決に繋がるのか理解していない人が多く、本事業の周知が重要。

- ・重層的支援体制整備事業は福祉課題以外にも対応するものである。福祉課題の解決からの観点とまちづくりの観点が融合するものであることを、市町に伝えていくことも重要。
- ・市町における庁内連携ができていないと重層的支援体制整備事業の実施につながらない。市町の関係機関の庁内連携会議を創設する働きかけて支援をしてほしい。

#### <地域づくり>

- ・地域における役員の任期が短いため、地域の課題解決やまちづくり協議会の設置までつながらない。民生委員はまちづくりに携わって支援につなげることができると思うが、そのような仕掛けが構築できるといい。
- ・計画本文にまちづくり協議会など住民組織の記載があると、県民に届いたときに自分たちも関わっていることを意識するのではないか。
- ・地域づくりは人づくりにもつながるものであり、地域づくりに向けた市町のプランが重要。

#### <福祉人材確保>

- ・現役世代が減っていく地域は人材確保がむずかしく、県内の地域差を縮めていくことの支援が重要。外国人介護人材の確保もこれから重要となってくる。

#### <認知症基本法>

- ・令和5年6月に成立した認知症基本法についての記載が必要ではないか。

#### <災害時対応>

- ・要配慮者の個別避難計画策定が少ない状況にある。誰がどのような状態にあって具体的にどのような支援をするのか、防災関係者の共有が大事。
- ・被災された方々に対する見守りや相談についての記載も重要。